

広報



しらす



おどりでた 荒馬と太刀振り

にぎやかに相内の虫送り

相内の「虫送り」は年ごとにさかんに
なってきました。いまでは観光的な要素
をふくめ民俗芸能として県内外から高く
評価されています。

太刀振りは田植え後のさなぶりに荒馬
とカサホコ、棒踊りの行列が踊りである
のだが、それは農家の祭りにふさわしく
真赤な夕日が沈むころまで続けられまし
た。

子どももおとなもこの日だけは、太刀
振りに余念がなく、ひびく太鼓の音に五
穀豊稔、無病息災の願いをこめて村をね
りあるきました。



7 月No.84

まず、あなたの近くの海浜や河川敷、空き地を絶点検してみてください。うず高く積まれたゴミの山に

ゴミ公害に泣く公共地

消費生活時代といわれるこのごろ、各家庭から吐きだされるゴミや廃棄物は増えるいつぼうです。そして、所かまわずゴミが捨てられ、公共の場所はゴミ公害に泣いています。行政にも問題はあろうでしょう。しかしそれ以前のことを私たちみんなが考えてみる必要があるのでは。

まさなら驚くことでし
よう。いうまでもなく不法
に捨てられたゴミにほかな
りません。



ゴミは収集日の朝に出しましょう

漁獲にも大きく影響

海浜や河川にはゴミを捨てない

海浜や河川敷にゴミを捨てても、大したことがないと考えているかたが多いようです。これは大がかりなシケになれば流れてしまふだろうという単純な考えからだとおもわれます。十三湖の河口付近はいつもゴミの山です。これは上流で不法に投げられたゴミが砂浜に打ち上げられるためです。ゴミの大半は畑苗代に使ったビニールやポリ製品の残がいで、これが家庭から出るゴミとともに下流に運びこまれるわけで

週一回のゴミ収集ではどうにも処理に困って...という人もいますが、やはり、公共の場所へゴミを投げ捨てるのはやめたものです。

村営ゴミ捨て場の利用を

ゴミの収集は毎週一回行なっていますが、七月から当分の間(九月ごろまで)毎週月曜日にも行なうことになりました。これは汚物や残飯を主体にしています。週二回の収集で余ったものは村営のゴミ捨て場に運んでいただきます。これをとおきたるため海浜や河川敷、その他に捨てる

傾向が強く、ゴミ公害の原因をつくっているようです。しかし、このゴミは村外からの投げ捨てもあるため、村ではこの点についても注意をうながすこととしています。

また、古い家屋の解体によって出るゴミや製材所などの残材など産業廃棄物はそれぞれの手で処理していただきます。



よい環境はあなたの手や心から生まれます
(村営ゴミ捨て場)

周辺の浜辺にはハマナスが花をつけていますが、ちぎれたビニールがぶさつて花も台無しで、おとずれの観光客がっかりさせています。

そればかりではありません。シジミ貝やホラの漁獲にも影響しています。底に沈んでいるビニールのため思うように漁ができないと

廃物利用の励行をー

捨てられている廃棄物(粗大ゴミ)のなかには、まだまだ利用できるものが目につきます。

「物をたいせつにー」といつてもビントこない人も多いでしょうが、廃物利用の励行はいまもかしこも変わっていません。こうもリサイクルを利用して物をつくったり、冷蔵庫を本棚に改造するなど、アイデアを生かして生活に役立たせている人もいます。

家庭から出るゴミは一日約八百グラムから一キログラムだといわれます。そのなかで紙類が三分の一を占めています。紙はたいせつな森林資源からつくられま

漁業関係者は嘆いています。海浜へゴミを捨てることも同じことです。海へ流れ出たゴミは、ふたたび岸に流れつくことになりまし

すが、もつとも粗末にされているのがこの紙です。すぐ捨てることなく、まともておいてチリ紙交換や廃品回収のかたに渡すようにするものもゴミをすくなくする方法でしょう。

物をたいせつにしておくかたという時がくるかも知れません。ゴミを捨てる前にもう一度利用価値を見きわめてください。

ひよつとくかんだけアと工夫があなたの生活の中で見えるような道具として役立つことで、しょうたゴミ捨て場を見てまわった発明工夫家が、こんな立派なものを捨てるのはと驚いているほどです。



川から流れついたビニールくずとゴミの山 (十三湖河口)

村民の声

村営のゴミ捨て場を整理して
相内、商業
奈良 広悦さん 38



ド口パッパの収集
で余ったゴミは、村営のゴミ

ミ捨て場へ持って行くのが、入口付近にばかり捨てるので風が強くなると飛んでしまう。村でもPRする必要もあるし、これまでのゴミはブルドーザーでくぼみへ押ししてください。自分勝手な投げかたはだめです。

たすかる週
二回の収集
福元・主婦
竹谷・エクスさん(32)

残飯は腐敗しやすく困っています。毎週月曜日に収集も収集することになったの



十三湖岸に
くず入れを
十三、旅館業
工藤重二郎さん(39)



で、こんなことでしたら福元にも村営のゴミ捨て場を設置していただきたい。それが実現できれば不法投棄はなくなる人

人たちは、べんとうからや空きびんを散らばしたままです。ゴミは持ち帰るか、まともておくことが公衆道徳というものでしょう。それにしても村でくず入れを置いてくれば、大変なすかと思うが……。

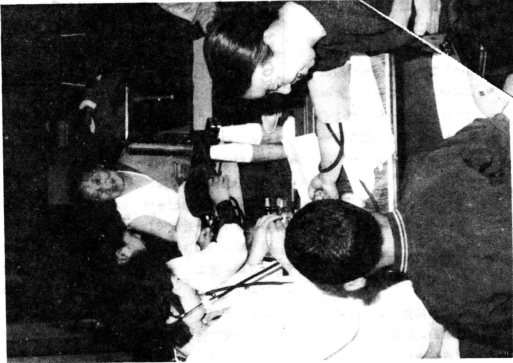
行政の側から

ゴミをつくらない
出さない工夫を
民生課長 高松 隆 三

「さいものにフタ」方式では最近のゴミ公害をなくすることはできません。村でも回収機能を強化するため七月からは「燃えないゴミ」も「燃えないゴミ」も同時に毎週木曜日に回収することとしたほか、夏期間(七月から九月)には汚物を専門に毎週月曜日に収集することになりました。つま

り毎週二回の収集としたわけです。

いづれにしてもゴミ公害は住民みんなが加害者であり、被害者でもあります。投げ捨て、使い捨てする前にもう一度よく考え「ゴミをつくらない、出さない工夫」をしてください。ゴミに関するルールを守るようにし。



↑尿の検査をしてみなくても(一般健康相談)



↑心臓の状態はどうか(心電図検査)

なによりも健康 移動保健所

六月二十日は、馬元と十二に移動保健所が開設され、血圧測定、心電図、眼科診察をはじめ乳児用、栄養食のつくりかたなどを学ばれました。あつたみなさんは、それぞれ自分の健康についてのアドバイスを受け、ほつと胸をなでおしにこころ安かったです。

この移動保健所はほかの地区でも行なわれますが、五川原保健所は気軽に利用できるよう心がけています。

で明るい生活を を開きました

健康不明の生活。それはみなさんが考えていることです。しかし、日ごろ自分健康は自分守るにしようとしても手に負えないことがたくさんあります。そこで、保健所では、こうした人たちの健康を守ってあげよう、健康検査を受けたい、いろいろ検査を行なうなど、住民の健康管理を運んでいます。

移動保健所は、五川原まで足を運ばない人々のために、その健康の一部を動かさせ、みなさんの健康維持についてアドバイスしている



ずいぶん大きくなりました(赤ちゃんの体重測定)



ちよっと高いようですね(血圧測定)



健康なからだづくりは栄養食から(スタミナ料理のつくりかた)



ウイスキーではありません。飲料水の格差ですよ



人間的な健康状態を確かめるには、まず自分の健康状態を確かめよう。そして、自分自身の健康状態を確かめよう。そして、自分自身の健康状態を確かめよう。

自分の健康は自分の手で

十三地区 公務員 K・H生

自分の健康状態を確かめるには、まず自分の健康状態を確かめよう。そして、自分自身の健康状態を確かめよう。そして、自分自身の健康状態を確かめよう。



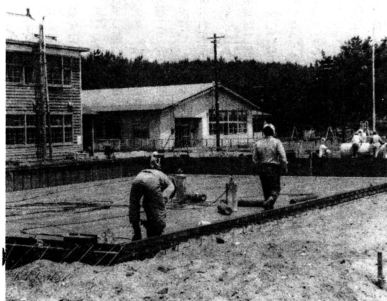
相内小・今月末オープン

相内地区には適当な水泳場がないため、村では六月から相内小学校南側の校庭にプールを建設しています。が、今月末にはオープンできそうです。

このプールは鋼板づくりの二十五メートルに十六メートルの八コースで、工費は一千百五十万円です。また、プールの東側には

更衣場、シャワー室、便所、浄化装置(かん流式)、洗顔場、消毒槽などが完備されます。完成すれば本村では初めてのプールであり、児童、生徒だけでなく、一般にも広く利用していただきます。

なお、村では年次ごとに各地区へもプールの建設を検討中です。



急ピッチに工事が進められている相小プール

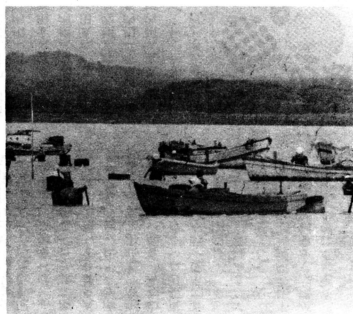
養殖シジミが解禁されました

—3日で1万トンの水揚げ—

十三漁協(本荘珍雄組合長)では七月五六、七日の三日間養殖シジミが解禁になり、連日七十隻の船が出て十三潮は時ならぬにぎわいを見せました。

かつては無尽蔵といわれ、採取しなければ枯らつて息死するほどで、平方メートル三千個も埋まり、村の重要な産業となつていきましたが、水揚げが増えるにつれ資源が枯らつする恐れが出、漁協では数年前から中島周辺で毎年稚貝の養殖をしました。組合員約百十人が毎年約三トン入れ成員にとめていました。

こうした解禁になったのは、一昨年からはこのツブのそつた成貝です。三日間で採取したシジミ貝は約一万トンの水揚げでした。出荷先は北海道から秋田、岩手が大半ですが、セリ値は漁協が予想したより下がりますがまずまずの取戻だったとことです。



にぎやかにシジミ貝採り (中島付近)



土岐さん(太田小)が三級に—

- 三級 土岐よえ(太田小)
- 四級 葛西由佳 山田恵美子(太田小)
- 五級 石岡純子(太田小) 佐藤晃一(相内小) 奈良千草(太田小)
- 六級 鎌田圭子 米谷幸美 三和寿重子 成田武史 秋田谷せき子(相内小)
- 丸山孝子 木村夏子 青山拓道 奈良文子 植野恵子 丸山寛保子 木村明美 奈良明美 米谷洋子 土岐よし子(太田小)
- 石田功 成田秀子 三上
- 七級 智子 斎藤まき子 葛西時江子(太田小)
- 八級 奈良豪人 工藤正子 三浦利幸 岩間みい子 岡本富士子(相内小)
- 奈良利美 山本恵美子 丸山正文(太田小)
- 伊南杉子 高坂静子(太田小)
- 清野貴子 秋田谷泉 相川恵子(十三小)

戸籍の手数料が変りました

—抄本は七十円に—

戸籍手数料が七月一日からつぎのとおり変わりました。

▽戸籍抄本一通一五十円が七十円に

▽婚姻受理証明書一通一四百円が五百円に

なお、印かん証明、住民票の写し等はこれまでどおりです。

あわびを採ってはいけません

— 脇元海岸に稚貝 1 万個放流 —



稚貝を放流する漁協組合員

ろう電しや断器の取付けを

— 二〇〇ボルト以上の電気機器に —

電気設備技術基準が変わり、電気機器にろう(漏)電しや断器の取り付けが義務づけられました。ろう電しや断器を取付けなければならぬものは、電気温床、かんがい排水用モーター、融雪機器、浴室で使う洗濯機、水気のある場所に使う電気機器、住宅に施設する二百ボルト用の

村と脇元漁協ではあわびの増殖をはかるため、このほど脇元海岸一帯に稚貝を一万个放流しました。これは昨年約八千個に次いで二回目です。このため例年ですと八月から禁漁になるのですが、ことしはただちに全面禁漁となります。

不法にあわびを採捕すると青森県海面漁業調整規則第三十六条の規定によって六カ月以上の懲役、または一万円以下の罰金をうけることがあります。また、漁獲物と違反者が持つている漁具も没収されます。なお、毎年監視員を配置していますが、範囲が広いので、目の届かないこともありますから、違反者を発見したときは漁協にお知らせください。



「捕(と)る漁業から考える漁業への転換は積極的にやるべきです。も

十三漁業協同組合長

ほんじょう はるお
本庄 珍雄さん(51)

「しじみにしても二年前、一人当たり七十キロ(三千円)放流した稚貝が金額にして約二万五千円の水揚げとなり、八倍の増えかたをしています」
養殖事業の必要性について例をあげ説明し、「い

考える漁業で計画生産

「しじみにしても二年前、一人当たり七十キロ(三千円)放流した稚貝が金額にして約二万五千円の水揚げとなり、八倍の増えかたをしています」
現在、県内水面漁場管理委員、児童民生委員(四期目)総務を兼務。

今月の訪問





(14)

安東水軍

④

山内 英太郎

平家復讐

安東水軍は源氏からの加勢をうけたが、安東氏は季十二湊の軍船十二隻を赤間ヶ淵に出帆させた。もとより源氏に対する恨みは深く一族にとつてかたときも忘れることができなかった。

京師の六波羅羅題がくずれて去つて以来、熊野の尾崎一族の水軍は源氏へ加勢したので、平氏の水軍はつぎつぎと探え、内海の塩飽水軍、小豆島の池田水軍、因島の村上水軍は平氏を裏切り、屋島での合戦では平氏の前途を妨害し平氏を大敗に追いこんだ。

平氏一門は豊後水道を西に埋の浦の赤間間に船陣を敷き、安東水軍の到来を待ったが、源義経の急迫は激しく、刻の余裕も与えなかつた。これに対し平氏の

なつた。

安東水軍は埋の浦の合戦が終つてから到着したので平氏の救援に間に合わなかつた。そして、奥州に向ひてしかきあげるため出航した。しかし、日向國・五十鈴川湊に平氏一門が隠れ住み安東船の救いを待っているとの知らせを聞いて、東に舵を向けて航走して、五十鈴川湊から平氏一族の貴族百十人乗せて一路奥州十三の湊に救つた。この一行のなかに、安徳帝のほか平氏尼もいたので、安東氏は福島城の平氏と山王の平氏に奉迎した後、浮太刀(うきだて)に御所を築いて安住の地とし、ここを天皇山として護つた。その後二位の

には寒冷のため安徳帝を春日明神の宮殿として、安東船にふたたび乗船し唐に渡つた。東日流(つがる)御処跡は天皇山という。

秋田 頼季
(筆者は郷土史家・村史編さん委員長)

◎孫から：村史編さんに関係した考古資料や遺物をお持ちのかたがありましたら、お貸し願ひしませんでしょうか。大切に取扱ひ、使ひ終わればお返しします。

窓の戸籍



ご誕生おめでとう

- 中井 寿子(十三) 貫一
- 三浦 加里(相内) 清一
- 三上恵理子(相内) 貫一
- 鳴海 秀隆(相内) 貫一
- 山本 貴一(太田) 市蔵
- 佐藤 謙(相内) 春雄
- 三上眞澄美(太田) 竹雄
- 米谷由香里(相内) 久雄
- 葛西 紀行(脇元) 敏昭
- 島津 徹也(相内) 彰治
- 柏谷 佐織(相内) 勉
- いつまでもおしあわせに
- 坂井 隆(十三)
- 杉浦 春美(愛) 知
- 村上 近衛(板柳)
- 濱田 梅子(十三)
- 小田桐信雄(弘前)
- 鳴海 恵子(相内)
- 青山 義光(太田)
- 相坂 初依(北海道)
- 山下 昭市(深浦)
- 今本むつ子(脇元)
- 千葉 隆(青森)
- 奈良 久子(太田)
- 小山内昭光(木造)
- 笹山美知子(脇元)
- 三浦 常男(相内)
- 飯富 千代(東京)
- 黒川 茂金(金木)
- 成田 涼子(脇元)
- 加納 一次(十三)
- 宮崎 啓子(十三)
- 川口 孝市(小樽)
- 奈良 節子(十三)
- 相沢 治男(磯松)
- 小寺美子江(脇元)
- 広瀬 博隆(東京)
- 斎藤 榮美子(脇元)
- 高松 文信(十三)
- 樺村 純子(茨城)
- おくやみ申しあげます
- 工藤留五郎(十三) 75歳
- 三和兼四郎(相内) 41歳
- 葛西 キセ(脇元) 74歳

編集室から

◇：虫祭りの太鼓の音も遠のいて若葉にわたる風もいつしか夏のよそおいとなりました。

沖も夏漁夫の

子守の唄僅し 仙三

五月初めから続いた日照りは放牧場の水を干上からせ、水桶、畑作にも被害を与えました。七日に雨は降つたもののほんの「おしめり」も、もうひと雨ほしいと嘆いています。

◇：さて広報七月号をお届けします。毎月十日発行をお約束していきながら、いろいろなつごうでまたしてもおくれおびいたします。

◇：今号は移動保健所をはじめ、ゴミ公害を考えるなど写真を主体に編集してみました。いかがでしょうか。どしどしご意見をお寄せください。

みんなに観しまれる広報をつくるためには、なんとしても村民のみならず、ママの声を聞きこれを編集に反映させなければなりません。どうぞよろしく。